

若松賤子 わかまつ せんと 織譯家。文久四年二月一日陸奥國會津生れ、明治一十九年二月十日没（二六歳一七）。舊姓松川、本名巖本申子 いわもと かし。筆名めし子、しづ、しづのゆ、しづの女、しづ子、よし子、島田めし、島田めし子、島田嘉志、島田釋子、巖本のぢ子、巖本善治妻、巖本嘉志子、松川甲子、某女、若松しづ、若松まぶづ、若松しり子、若松しづ子、若松松賤、賤の女、Kashi Okawa、Kashi Iwamoto等。明治十年受洗、十五年フエリス女學校高等科卒。同校英語教師。二十二年明治女學校教頭巖本善治と結婚。

譯著書 『第二國民小説』（合著、明治二十六年六月一日民友社）、
 『バーネツト作』 英和對譯 セーラ、ケル、物語（ミンチン女塾の出来事）
 （譯、木下洋真編、明治二十七年十月二十日内外出版協會）、
 『バヤネツト作』 小ハム子（譯、昭和二年十月二十五日岩波書店「岩波文庫」）、
 『バヤネツト作』 小ハム子（譯、昭和四年六月二十五日改造社「改造文庫」）、
 『若松賤子集』（中野清子解説、昭和十二年五月二十八日富士房「富士房百科文庫」）等。
 文獻、山口鈴子著『こころを兒がまへ』若松 子の生涯（昭和十五年五月十五日新潮社「新潮書下りし文芸作品」）等。

